

編 集 後 記

この報告書は、鹿児島県立短期大学の地域研究所の在り方を検討し、鹿児島の地域社会に根ざした総合的な調査事業の推進を図ることになった。このような試みはこれまでも行われた経緯はあるが、近年の鹿児島地域社会が抱える社会問題の深刻さを考えると、その研究・調査の在り方も問直さなければならない。4年前、地域研究所の在り方、また研究・調査の在り方の方向を探るために、鹿児島県内の特定の地域を対象に総合的な調査事業をスタートし、今回の対象地域を北薩地域（大口市・菱刈町）とし、調査事業を行った。

この報告書は、大口市・菱刈町で実施した調査事業の全てを網羅したものではないが、2年間にわたって実施してきた調査活動を総括したものである。この報告書にまとめられた私たちの調査活動の結果が、地域が抱える問題に対してどの程度解明できたのか、そしてまた、地域で生活するみなさんの期待にどの程度応えることが出来たのか心もとない限りである。しかしながら私たち鹿児島県立短期大学地域研究所がこうした調査研究活動を引き続き行っていくことによって、幾分かでも地域社会の向上に寄与できることを願っている。

最後に、今回の調査事業を進めるにあたって、多くの方々のご協力を得られたことに心からの感謝の意を表します。大口市役所、菱刈町役場の皆様や、教育委員会の皆様をはじめ、私たちの調査活動に快く応じ、かつ貴重な時間を割いていただいた地域住民の皆様のご協力なくしてはこの拙い報告書の作成はありえなかった。

私たちの調査研究事業はこの報告書の作成で終りではなく、残された研究課題については引き続き調査研究を続けていくつもりである。さらに、この調査報告書によって私たちが大口市・菱刈町が抱える課題をどのように捕え、何を問題提起したかったのかなどについて報告し、同時に意見を交す機会ができることを願っている。

1998年3月

鹿児島県立短期大学
地域研究所長 釜 田 忠